

くすのき

Kusunoki



リニューアルした学生ラウンジ(P.8で紹介)

CONTENTS

● Feature Story — 大正モダンの香り漂う和洋折衷の名建築

樟蔭学園の 歴史的財産・登録有形文化財 「樟徳館」

1

● こもれびの窓 — 「患者さんの気持ちに寄り添える管理栄養士をめざして」松原 亜海さん

3

● SHOIN Report — 就職活動特集「就職活動を頑張る後輩たちへ」

5

● NEWS — 「学生広報チーム『ステラプロジェクト』が活躍中!」ほか

7

● みんなの声 — テーマ:「新入生に伝えたい樟蔭のいいところ」

12

● Information — イベントのお知らせ

13

● WingBEAT! — 「異文化に触れて、『学ぶことの楽しさ』を発見!」●●●●●さん

15

● CLUB NAVI — 大学 マンドリン部

16

● 育むところ — 「一度きりの人生、その瞬間の気持ちに正直に」近藤 眞太郎先生

17

● FORUM — 皆様とのコミュニケーションスペース

18

● リレー★コラム 川上 正浩 先生 & STAFF@SHOIN 西野 律先生

19



はばたけ、知性。



大正モダンの香り漂う和洋折衷の名建築
樟蔭学園の歴史的財産・登録有形文化財「樟徳館」

小阪キャンパスにほど近い場所にある樟徳館はもとも、学園の創立者である森平蔵の住居として昭和初期に建てられました。没後は学園に寄贈され、今も当時の姿のまま大切に保存・活用されています。

2000年には国の登録有形文化財となりました。大正モダンの雰囲気にも包まれた和洋折衷の建築美に惹かれ、これまで多くの人々が見学に訪れています。

他にも学園では“記念館”と“樟古館”が登録有形文化財となっていますが、樟徳館はその2館と同様に学園が誇る貴重な財産です。建築当時から現在に至るまでの歴史をひも解きます。

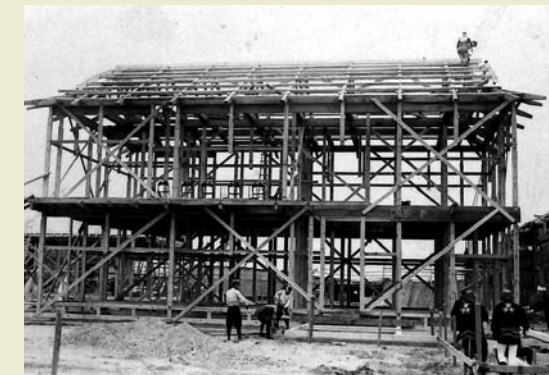
樟徳館の歴史

森平蔵(1875-1960)は大阪市内で材木商を営みながら森平汽船株式会社を興した実業家で、1917(大正6)年に現在の樟蔭学園の前身である樟蔭高等女学校を創立しました。

現在の樟徳館がある場所には「東洋のハリウッド」と呼ばれた帝国キネマの長瀬撮影所があり、周辺には映画関係者が住んでいたり、監督や俳優のための旅館などもあったといわれています。ところが1930(昭和5)年に焼失し、撮影所は京都太秦に移転しました。

その跡地を入手した森平蔵は、私邸の建築のために日本各地の銘木をすべて原木で集め、隣地に設けた製材所で製材を行いました。自ら墨がけ・木取りするほどの熱の入れようで、さらには関東からも棟梁を呼び寄せ、別々の部屋の施工を任せることで地元の大工と技術を競わせたという逸話も残っています。

材木商ならではの木に対するこだわりと、鋭い美的感覚が全面に表れたこの邸宅は、1939(昭和14)年に完成しました。森平蔵は1960(昭和35)年に亡くなりましたが、建物は故人の遺志によって樟蔭学園に寄贈され、樟徳館と命名されました。現在では大阪樟蔭女子大学の学びの場として使用されています。



登録有形文化財に指定

2000(平成12)年10月、樟徳館の主屋・土蔵・鎮守社・門・東塀・南塀の6点が国の登録有形文化財になりました。「造形の規範となり、再現が容易でないもの」と評されているように、現在ではとても手に入らないような最高級の木材が惜しみなく用いられ、技術的にも当時の職人にしか作れない細工が施されています。

主屋の外観は壮麗な和風の木造2階建てでありながら、内部の洋風の居間に床の間がしつらえてあるなど、和洋折衷のデザインが多く見られる点がこの館の特徴です。どの部屋も趣向が凝らされ、中でも応接室は天井にクスノキの巨大な一枚板を張り、床はナラの寄木細工で、お寺の花頭窓(かとうまど)を模したような窓ガラスには繊細な花柄の装飾を施すなど、見事な造りとなっています。他にも、アール・デコ調の照明が輝く食堂や、一本の杉から数枚しかとれない中柵(なかもく)板でできた仏間の天井など、細部に至るまで見どころ満載です。

NHKドラマ「カーネーション」に登場

最近では2011年秋から半年間放送されたNHK連続テレビ小説「カーネーション」の撮影場所選ばれ、樟徳館らしい優雅な雰囲気が映し出されていました。

“朝ドラ”過去8年間で最高の平均視聴率を記録した「カーネーション」は、世界的なファッショ

ンデザイナーのコシノ3姉妹の母であった、小篠綾子さんをモデルにしたドラマです。樟徳館は“ヒロインの祖母宅”などの設定で使用され、ヒロイン役の尾野真千子さん、十朱幸代さん、栗山千明さんらが参加して3日間にわたる撮影が行われました。



95周年記念 樟徳館一般公開を行います

今秋、学園の創立95周年を記念して、樟徳館の一般公開を行います。この機会にぜひご来場ください。

日 時：11月10日(土)・11日(日) 10時～16時 入場無料・予約不要

アクセス：小阪キャンパス正門から南へ徒歩約15分、または近鉄大阪線長瀬駅から北へ徒歩約5分

お問い合わせ：学校法人樟蔭学園 学園広報室 TEL:06-6723-8152



京都の大学病院で、栄養面から患者さんの健康をサポート 「患者さんの気持ちに寄り添える 管理栄養士をめざして」

松原 亜海さん

管理栄養士

京都府出身 2000年度大阪樟蔭女子大学学芸学部食物栄養学科(現 健康栄養学科)卒業

まつばら・あみ ● 大学卒業後、京都市内の病院や保健所を経て、2006年に京都大学医学部附属病院 疾患栄養治療部栄養管理室に入職。2012年3月、働きながら通っていた同志社女子大学大学院生活科学研究科を修了。「どんな仕事でも、その先には必ず患者さんがいる」ことをモットーに、母校、樟蔭で開かれている栄養療法向上に貢献する勉強会などにも定期的に参加。最新の食事療法を学ぶことを大切にしている。

管理栄養士として京大病院で働く松原亜海さん。病気で食事を自由に楽しめなくなった患者さんへの栄養指導や、食事療法についての研究などを行っています。「私自身が食べることが大好きなので」と、できるだけ患者さんがストレスを感じないような栄養指導を心がけ、多くの患者さんから信頼を得ています。京大病院での現在の仕事のことや、「樟蔭でよかったなあ」と振り返る学生時代についてお伺いしました。

最初は、アスリートをサポートする栄養士をめざして

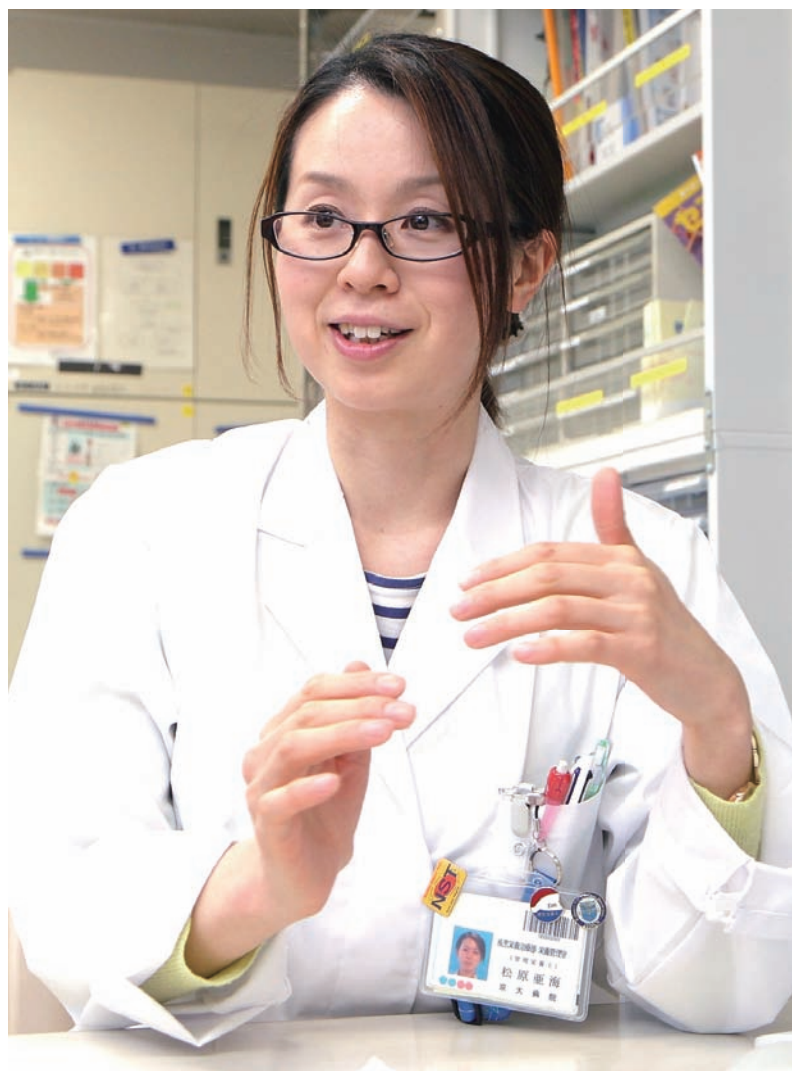
「オリンピックをきっかけに、勝手に”決意!”」

1996年、アトランタオリンピック直前。あるテレビ番組で、体操の強化選手がファミレスで食事をしている姿が映りました。その瞬間、一人の女子高生の夢が動き出します。

「そんな食事でメダルがとれるの?と心配になって。だったら、私が何とかしよう。栄養士になろう!と勝手に決意してしまいました。今年もそうですが、オリンピックが開催される年になると、そんな”自分のじまり”を思い出します」

松原さんは高校生の頃の”決意”を貫いて、大学卒業直後に管理栄養士の国家試験に合格しました。

「いきなりアスリートの栄養アドバイザーになるのは無理だと思い、実践的な知識と経験を積むために180床ほどの病院に就職しました」と、京都市内の病院を中心に保健所などでも勤務を経験。2006年に現在の職場である京都大学医学部附属病院(京大病院)の疾患栄養治療部栄養管理室に入職しました。「アスリートをサポートする栄養士をめざしていましたが、いつの間にか臨床の現場にどっぷり」と、患者さんと向き合うことができる今の仕事に夢中になっていきました。



患者さんと向き合う臨床の現場で

「一人ひとりに合った栄養指導を」

京大病院は病床数1,000床を超える大病院。入院、外来ともに多くの患者さんが利用しています。松原さんが所属する栄養管理室では、給食の献立の見直しや衛生管理・施設管理などを行う「給食管理業務」や、患者さんへの栄養指導、また医師・看護師とチームを組んで入院患者の栄養面をサポートするNST(栄養サポ

ートチーム)を含む「栄養管理業務」などを行っています。医師や看護師を中心に様々な職種のスタッフが患者さんのために働く病院。その中で、栄養面でのアプローチから健康をめざす栄養士の仕事の魅力についてこう語ります。

「患者さんとゆっくり話せることです。栄養指導はだいたい1人につき20~30分くらいの時間をかけます。ですから、多くの患者さんを診察しなければならない医師と比べると、管理栄養士は患者さんにより親身になって接することができるんです」そうして信頼関係を築き、最適な療法を見つけて実施していく中で「健康面で良好な結果が現れ患者さんが喜ばれている姿を見たときは、とても嬉しいですよ」と話します。

一方で、時に管理栄養士は患者さんに負担を強いなければならない場面もあります。「エネルギーや塩分の摂取を控えたり、禁酒を促したりしなければならないこともあります」。しかし松原さんは、好きな食べ物を完全に禁止してしまうのではなく、量を加減したりすることで、「食べる楽しみ」を奪わないように気を付けていると言います。さらに、同じ病気を患っている患者さんでも画一的な指導をするのではなく、「一人ひとりのライフスタイルに合った食事療法を考えるように心がけています。新しい食事療法にも敏感になって、患者さんに正しい情報を伝えたい」と話します。

いつも真摯(しんし)な姿勢の松原さんを信頼して、「先生(医師)には言えなかったけれど、実はお菓子を食っちゃって」と告白する患者さんもいるとか……。 「とにかく患者さんの気持ちに寄り添った指導を心がけています。患者さんが信頼してくれて、どんなことでも相談してもらえるようになると嬉しいです」

その笑顔には、松原さんになら何でも話そう、そう思わせる朗らかな魅力があります。

大学院へ社会人入学。背中を押したのは樟蔭時代の恩師

「食いしん坊仲間たちと、家族のような学生時代」

大学病院では、「研究」も大切な仕事。ちょうど京大病院に入職して3年が経った頃、松原さんは仕事をしながら通学できる京都の大学院に入学しました。

「学生時代は資格取得の勉強で一生懸命でしたし、ゼミではグループでの研究が中心でした。仕事では個人で『研究』することが求められたので、大学院に行き、論文の書き方や学会発表についてなど『研究の方法』を改めて学びたいと考えていました。また、京大病院でいろいろな疾患を持った患者さんと接していて、臨床のことについてもっと本格的に学びたいと感じていたのです」

そんな松原さんの背中を「大学院入学はきっとプラスになるよ」と

押ししてくれたのが、健康栄養学科の打田良樹教授。松原さんは樟蔭在学中、打田教授の食品衛生学研究室に入っていました。卒業後も転職のことなど打田教授にアドバイスをもらい、「お世話になりっぱなし」だといいます。

「地元の京都でアルバイトをしていたので、3回生までは授業が終わるとすぐ帰るという生活だったのですが、4回生で打田先生の研究室に入って、実験のために学校にいたことが多くなりました。打田先生は本当に気さくで、お昼ごはんを一緒に食べたり、みんな恋の悩みなんかも相談していましたよ。私が国家試験と就職活動が重なって不安になっていた時も、話をゆっくり聞いて『焦らないで大丈夫だから』と安心させてくださいました。先日大学院卒業の報告でお会いしたばかり。『ね、行ってよかったでしょう?』と喜んでくださいました」

松原さん曰く「食いしん坊ばかりのゼミだった」とのこと。仲間たちと美味しいものをよく食べに出かけたそう。「ひつまぶしや味噌カツを食べに名古屋に行ったり。家族のように居心地のいいゼミでしたね。学生時代の一番の思い出です」

学生たちへのメッセージ

「いろんなことに興味を持って、積極的に挑戦を!」

樟蔭のおおらかな校風が印象的だったと話す松原さん。「私はそんなに出来のいい学生ではなかったと思うのですが(笑)、先生方は親身になって勉強を教えてくださいました。片道1時間半ほどかかる通学が大変だと感じることもありましたが、のんびりとした学校の雰囲気が好きでしたね」と、卒業後は「樟蔭で良かった」と思い起こすことが多いといいます。

最後に学生たちへのメッセージをお伺いしました。

「私が学生時代に戻ったら何をするか考えた時、もっと積極的に先生に質問などしておけばよかったと思います。先生方はその道のプロフェッショナルばかり。ぜひいろいろなお話を聞いておいてください。そして、旅行やアルバイトなど様々なことにチャレンジしてください。知見を広めておくことは、どんな仕事にも役立つことだと思います」



先輩たちはどうやって夢を叶えたの？ コツは？ アドバイスは？ 就職活動を頑張る後輩たちへ 自分を信じて、夢に向かって突き進もう！

3月に卒業した先輩方は、厳しい就職事情が続く中、公務員や教員、民間企業など、様々な分野に羽ばたいていきました。「面接ってどんな雰囲気？」「どういう対策をしたの？」夢を叶えた先輩にインタビュー。皆さんが気になる就職活動の体験やコツを教えてくださいました！



自分らしくを大切に、就活は楽しく！

スタート当初は、焦ってパニックに……

父がアパレルメーカーに勤めていて、樟蔭を卒業した姉はスタイリスト。小さい頃から服が好きで、仕事にできればと考えていました。と言っても、就職活動を始めた3回生の10月頃は、様々な企業にエントリーをしました。当時はとにかく焦っていて、徹夜でエントリーシートを書いたり、予定のない日は不安になったり。負の感情ばかりが湧いて、「これじゃダメだ」と1週間ほど活動を休みました。そうしたら「やらなきゃ」と焦ってきて(笑)。でも、休んだ時期に自分を見つめ直し、「就活は午前中を中心に、夜は楽しくごはんを食べる!」と、メリハリのある活動を心がけるようになってから、精神的にも良くなり、結果もついてきました。

実際の活動では、父や姉、アパレル関連に勤める先輩など、業界を良く知る方々からアドバイスを貰うことが多かったです。例えばエントリーシートでは志望動機などの書き方が分からず、本を参考にしていたのですが、落ちてばかりでした。そんな時、家族から「もっと自分らしく自由に書いていいんだよ」と言われて。それまでは良く思われようとしていたので、「単純に言いたいことを伝えればいいんだ」と思うことができました。面接についても、父が「面接官も家に帰ればお父さんと同じだよ」と言ってくれて、怖くなくなりましたね。「自分らしく」を大切にすると、エントリーシートも面接も楽しくなっていました。

早めに始めて、早めにコツを掴む!

3月上旬には、アパレルを中心に数社から内定を

いただきました。しかしそこで働くビジョンが見えなくて、辞退させていただいたことも。そんな中で出会ったのがミキハウスです。ミキハウスはとにかく社員の皆さんの笑顔が素敵で、「普段も楽しいんだろうな」と働く姿が想像できました。次第に憧れが強くなり、内定をいただいた時はとても嬉しかったです。今の目標は、お客様が「会いたい」と思う販売員になることです。就職活動は、失敗しながら少しずつコツが分かってくると思います。迷った時は私のように休めばいいと思います。そういった意味でも早い時期に始めることは大切だと思います。いま振り返ってみると「楽しかった」というイメージのほうが強いんですよ。街で、落ち込んだ顔をしたスーツ姿の学生さんを見かけると、「就活は楽しいよ」と声をかけたくります。辛い時もありますが、皆さんもぜひ楽しみながら自分の夢を実現させてください!



Employment support 就職サポート



“ちよつとずつ”の積み重ねを着実に

「向いてるんじゃない?」と私を生徒会に推薦してくれたのは中学校の先生。「いつも味方でいるよ」と言ってくれたのは高校の時の先生。これまでたくさんの素敵な先生に出会って、いつか自分もそんな先生になりたいと思うようになりました。樟蔭を選んだのは、小学校だけではなく幼稚園の教諭と保育士の免許も取得でき、視野を広げられると思ったから。ただその分、4回生まで毎日授業があったので、平日は、採用試験のためにまとまった勉強時間をつくるのが大変でした。そこで私が編み出したのは“ちよつとずつ”の積み重ね勉強法。例えば、学校に少し早く来て授業の前に30分~1時間ほど勉強するなど、ちょっとした時間でも積み重ねていくと何十時間にもなります。また一

緒に教員をめざす友人と「過去問題を解く日」など目標を細かく設定し、「その日まで頑張ろう!」と休日も集まって勉強しました。面接の練習にも力を入れました。ほぼ毎日、昼休みに大学の先生にアドバイスをいただいたり、家では家族や鏡の前で練習。自動車通学だったので、車の中で自己PRを声に出して言ってみたり。とにかく笑顔を大切に何度も練習しました。

いざ本番! 初試験では、頭が真っ白に……

私は採用された奈良県が本命だったのですが、先行して受験できた他府県の採用試験にもチャレンジしました。この時の一次試験の面接では、練習では当たり前でできていたノックやお辞儀など基本的なことさえ忘れてしまったほど、緊張で頭が真っ白になってしまっていて……。終わった後はとても落ち込みましたが、気持ちを切り替えて「いい練習になった」と思うようにしました。その後の奈良県の試験では、それまでの成果を出し切れて「やりきった!」と思えました。やはり初めての試験は緊張するものです。日頃の練習はもちろん大切ですが、他府県の試験も受けておいて本当に良かったと思います。「教師は子どもたちの未来につながる職業」。これは、面接などのアドバイスをくれた先生の言葉です。この言葉があったから、先生という夢を一途に追いかけることができました。また、樟蔭で出会った友人たちにもたくさん励まされました。責任重大の仕事ですが、これまで出会った先生方のように、子どもたち一人ひとりをしっかり理解できる先生になりたいです。

Voice 2 香芝市立旭ヶ丘小学校 教諭

児童学科 2012年3月卒業
奥澤 歩未さん
おくざわ・あゆみ



夢だった「小学校の先生」に現役合格!

Voice 1 株式会社ミキハウス FA(ファッションアドバイザー) 被服学科 2012年3月卒業
林 未奈子さん
はやし・みなこ

「キャリアサポートプログラム」が充実しています!



本学ならではの「キャリアサポートプログラム」を通して、学生が主体的に自己の進路を選択、決定できる能力を育て、夢や希望を実現できるようなサポートしていきます。キャリアサポートプログラムは就職支援行事の開催、キャリア科目の開講、インターンシップの実施、資格対策講座などがあります。

PICK UP! 就職支援体制

就職ガイダンス
就職活動をスムーズに行うため、3回生時に年間8回実施しています。前年度の就職状況、業界・企業の最新情報を伝える他、自己分析の仕方、エントリーシートの書き方など、就職活動開始から内定まで、時期に応じて活動をサポートしています。ガイダンスの他にも、各種業界セミナーやOG懇談会、内定者報告会、筆記試験対策講座等を開催しています。さらには、11月から就職希望者全員に就職や進路に関する個別面談を実施しています。

PICK UP! キャリア科目

「キャリア設計」
自分を知り、社会を知ることを通して、将来、自分にとって望ましい生き方・働き方が実現できるように、自分の長所や強みを見つけていきます。
「キャリア開発」
社会で求められる能力を身につけるため、チームで取り組むプロジェクトを繰り返し、自分で考え行動する力、課題解決力、コミュニケーション力、チーム力を養います。
「キャリア研究」
実際に企業訪問、現場視察のフィールドワークに取り組み実践力を高めます。就職活動及び将来設計に自信と積極性を持って取り組めるよう実践的に学びます。



就業体験型インターンシップ

企業や自治体で、仕事とは? 社会人とは? を学ぶ
夏休み期間の約10日間、様々な業種の企業や自治体で就業体験を積みみます。働く上での責任感や常識などを実際に学ぶことができます。さらに、営業同行などを体験することで、新たな自分の適性を発見することにつながります。

実習先 ※平成23年度実績
アイン食品(株)、朝日新聞大阪本社、セラトンドホテル大阪 など

本学には、3つのタイプのインターンシップ制度があります。

学生提案型インターンシップ

企業と共同で、商品企画・マーケティングにチャレンジ
商品開発や市場調査など企業のニーズ・課題に対して、学生が消費者としての視点、女性ならではの視点を活かした提案をまとめ上げていきます。実習期間は長期にわたりますが、企業活動の本質を学ぶことができます。

実習先 ※平成23年度実績
コリス株式会社(菓子製造)、サナダ精工(100円均一製品製造)、泉南乳業(飲料製造) など

教育インターンシップ

教育の現場で教師や子どものサポートを体験
近隣自治体の教育委員会との連携のもと、主に夏休み期間を利用して幼稚園、小学校、中学校などで一定期間実習を行います。多様な教育支援活動に参加することで、教育現場の楽しさや厳しさを認識することができます。

実習先 ※平成23年度実績
東大阪市立上小阪小学校、大阪市立真山小学校、東大阪市立俊徳中学校 など